

一
号
月

今月の十人 + 1

ただのたなか
きんかく
クリスタル閑古鳥
鈴木智花
彩結ゆあ
武井窓花
森屋たもん
全美
鳥さんの瞼
深山睦美
吉田岬

そんな予感　ただのたなか

まだ蒼いデニムを履きたる僕となり柔らかそうなワンピースを着て

僕らしか知らないような音楽をかけて朝までふたり狂つて

もう二度と会わぬ人等でできた河その内より見る空はまだ高く

真夜中のこんにちはぐらいささやかな嘘を吐きたい傷を付けたい

むき出しの足の先にきみの気配僕の知らない暴言を吐き

羽を捨て言葉を吐いた よおHuman、愛の形を教えてくれよ

たらばの世界で生きる マグカップにはまだ少し泡が生きて

自販機でサイダー買ったよ甘いやつ 脱げたサンダル下へ 下へ

カーテンの隙間より漏る旭光が指示示す先に昨日のティッシュ

来世でも多分きみを好きになるそんな気がした青いピアス

創作理論三原則

きんかく

水になる過程に雪があるような骨のあまりに永い分解

「俺達、」のあとに別れが続くとき句点は涙を模して書くこと

用途別使用手順に則って愛に再度ブレーキをかけて

雪国と規定されてる人体の北端として霧の言語野

法的に言えばそれって詐欺ですね 端的に言えば救いらしないが

脈々と受け継がれている魂を煙草の灰で汚す生活

愛用と言い換えましょう腐つても持ち続けているプライドのこと

新しい抱負を持てない程度には腕いっぱいの問題の山

年末の焦燥感も新年の期待もさしづめ恋と思つた

寂しさの定義を喪うこととして、手に入れまるまでをはじめましょうか

正直な人 クリスタル閑古鳥

羨望　とおい光を見るうちに視力がすごく高まってしまった

夜と海が実は夫婦であることは波打ち際で泣いたらわかる

ケーキよりも斧をくださる？柄の長いあの天井を壊せるよう

しにたいの活用形をどの夜も産気づきつ暮らして きた／ゆく

正直な　には読め　はずですと差し出されて　ぐに滅ぶ王朝

猫っぽいと思うと言つていたから脈があるのかと思った　目を逸らされて

蠟燭の燃えるケーキに邪気のないあなたの老いがかなしくもある

斧を持つのは別に少年でも少女でも　あなたは待っているだけなのね

生身

鈴木智賀花

火の匂ひする髪を梳く言葉よりなほ饒舌に今宵生きたし

洒落くさきこともたのしきわが右手取りてうやうやしく口づけよ

心臓を揺らされをりぬ 感情はあふれて四肢を巡り巡りぬ

たまらなく泣きたくなつてきみのことを嘆み千切らうかふと考へぬ

くちびるもこゑもことばもここにありこころは遠くかなた 絶島

「優しくなりたい。」「それがいいと思うよ。」 彩結ゆあ

書き順は違つていよい違う字にしたくなつてもいいよ僕らも花びらはどこかで燃える永遠じゃないことかなり羨ましいな

したいのは時空を超えることよりもずっとずっと忘れないこと

私たち最後はみんな美化委員思い出たちがやけに鮮やか

消しゴムに頼つてばかりの柔軟さ取り戻したい コーラの香り

さよならと書きそうな手に抗つて春はあんまり許してくれない

冷たくて濡れているものは雨だけではないと十五で知つて

部屋のすみにいつかの埃あの頃と振り返ればどの頃もまぶしく

青と春合わせて熟語にしたひとはエモいの意味を知らない天才

植えようと買った球根時期過ぎてゆるやかに泣く今を生きている

せめて空くらい

武井窓花

自由 森屋たもん

冬ばかり助手席で目は閉じましたこころを刺し殺されないよう
死のための取扱説明書を目に透かす晴天の土曜日
今年ももうハンツキだぜつてラジオから真顔で眺めている冬の庭
雨の音も雪の静寂も美しくせめて空くらい泣いてくれ
月のない夜ならいよきよらかなものに触れると死ぬ夜がある
痩せた犬巣から落ちている小鳥あれはわたしだとか笑わせんな
中途半端、ぜんぶ、もう、中途半端ラメになつて綺麗と言われたい
(ほんとうはらくになりたいね)それはそうと今年も白鳥は飛来した
息をする業務を果たし終えたあとやつとすべてが明るみになる
人工物の滑らかさに触れすぎた手で生命を汚物みたいに言うなよ

「ヨルニオキル」

全美

黒ずんだ空は冷たい気を呼んでもう眠れない体を創る
寝て起きてを繰り返しているいつか寝て寝て寝てになる今は起きる
同僚にプロポーズされる夢を見て私の返事が今さら気になる
心臓が跳ねているなんでもない真夜中に体すこしおさまる
熱は微熱 微熱は平熱 平熱は普通 今んとこ普通
あと十分をくれる人がいたならば目玉を半分あげてもいいかな
なんとなく発熱しそうな温もりの体が鈍器めいている
国道は掘つて埋めてを繰り返し夜のうちに新しくなる
手を繋ぎ夜を静かに歩き出す軌道が狂うわたしのために
またこれも優しい人の過ごす夜さみしい夢を見ませんように

シケモク座流星群 深山睦美

#短歌とはとても自由でこの地球の何を詠んでも作つてもいい

おいそこのダサい名前を変えた奴、世間ではなく自分を愛せ
人生は死ぬ前に見る夢だからまだ寝ておいた方が得だよ
本を焼く者はやがて本棚も焼くようになる 火に氣をつけて
月光が部屋に溢れる月曜日あしたは何が溢れるのかな

シケモク座流星群を待つあいだ君の火種が僕を照らした
こめかみに銃の形の左手を押し当てるヒツチハイカー
国会でワニの動画を見るという脅迫状が来たんだろうね
歯舞が読めなくなつた大臣に「はほまいなのだと言ううんだもん

珍しい苗字の人コンビニで働いていた メリークリスマス!
ちはやふるあなたがちはやふる朝よ 吉田岬

その音が同意の意だと知らぬままはいと答える吊られた鸚鵡
五度目は確実に
四度許す仮の顔が終わつても最後にわたしの顔があるから
関係は薄れて消える樽ハイにシロップを注ぎ込むその間
そらみつの大和の地獄いいえ大和地獄ここにて燃える全てよ
柘榴が人の味なんて嘘 顔だけが整つてさえいれば正しい
袴田事件
ちはやふるあなたがちはやふる朝がせめて自宅であればよかつた
恋を知ることを拒んで生きおればずっと狂えず百年は来る
アイヌ社会まぶしき所は厳格に女系の定められたるところ
チセと言えりアイヌ語に家あるいは和王が人や獸を治めるあわい
晴天に鷗が雲であるように誰とも違う色味を生きる

「ご自由にどうぞ」と書かれて置かれてる木のスプーンへといま手を伸ばす
ブルボンの自販機で買うらよこあんばんじやなくてチヨコあんばん出てこない
中庭の空の四角にヘリコプター収めるために寝転んでいる
こんな仲間がいたらいなつて思うホームでゲロ吐く人さする人
しゃほん玉が上手い子でしたと言われてる犯人像を聞かれた人に
薄笑いでゆっくりコーヒー淹れてる住宅メーカーCM女優
ミントガムを毎日くれた先輩が何か言いたげに退学していく
チヨコバナナにくつついてるあの銀のやつ大好きみんなであれだけ食べたい